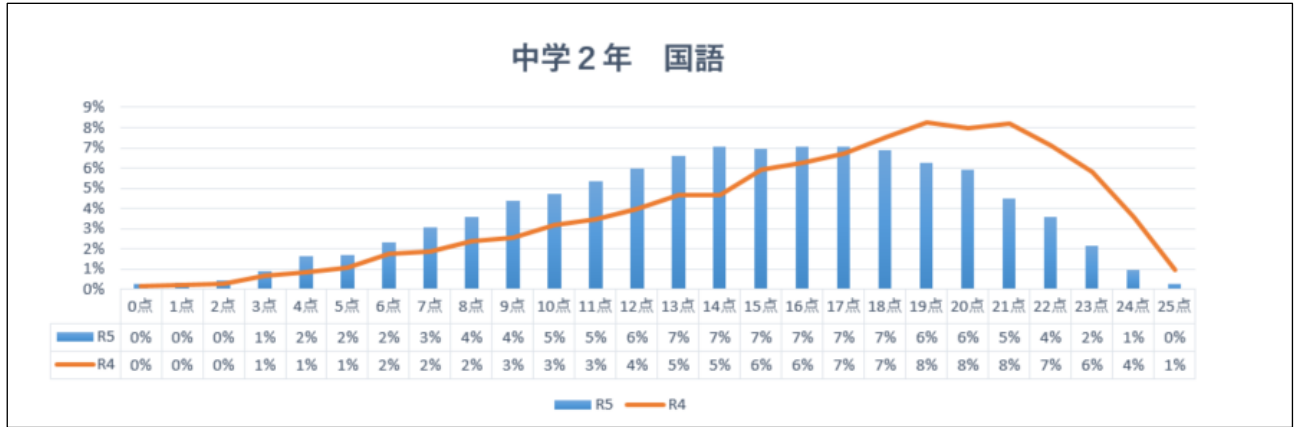


授業改善の手引 中学校第2学年国語

1 調査結果

(1) 分布状況



平均正答数は14.4問で、正答数14問～17問の割合がほぼ同数で横並びに分布し、R4年度の分布と比較して山が左に移動しています。R4年度と比較して、正答数が18問以上の層が減少した分布となっており、**思考・判断・表現の各領域の正答率の大幅な減少が要因と考えられるため、育成を目指す資質・能力を明確にして日々の授業を実践しているか検証が必要です。**また、平均正答数が5問以下の生徒が全体の約5%となっており、R4と比較し増加しています。この層に属する生徒へのきめ細かな指導が引き続き必要です。

(2) 領域等の正答率

観 点 ・ 領 域 等	正答率 ()はR4、
知識・技能 (7問)	67.6% (71%)
思考・判断・表現 (話すこと・聞くこと) (4問)	57.0% (71%)
思考・判断・表現 (書くこと) (6問)	54.4% (62%)
思考・判断・表現 (読むこと) (8問)	51.1% (61%)

(3) 結果概要

- ア [知識及び技能] については、7問出題され、正答率は67.6%でした。
 - 「文脈に沿って、語句を適切に理解する」は83.7%で良好でした。「漢字を正しく書く」は88.2%で同じく良好でした。
 - 「文脈に沿って、漢字を適切に使う」について32.9%と課題が見られます。
- イ [思考力、判断力、表現力等] (話すこと・聞くこと) については、4問出題され、正答率は57.0%でした。
 - △ 「自分の考えが明確になるように、話の構成を工夫する」は、話し手の構成を問う問題 (問題番号1) は85.5%と良好でしたが、話し合いを踏まえて構成を捉える問題 (同4) は31.6%と課題が見られます。
- ウ [思考力、判断力、表現力等] (書くこと) については、6問出題され、正答率は54.4%でした。
 - 「資料を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く」については、正答率が27.4%と昨年度よりも大きく低下し、課題が継続しています。引き続き指導の工夫が必要な状況です。
- エ [思考力、判断力、表現力等] (読むこと) については、8問出題され、正答率は51.1%でした。
 - 「文章の構成や展開を捉える」について正答率36.9%と課題が見られます。

(4) 経年比較問題の状況 ((○改善、◇改善傾向、●課題が継続、▼はR4県学調との比較マイナスを表す))

通番号	正答率	比較	調査のねらい
◇1(話聞)	86	0	自分の考えが明確になるように、話の構成を工夫する。
●13(読)	50	▼8	表現の効果を捉えて読む。
◇19(知技)	76	▼7	語句に関する類別の理解を深める。
●23(読)	37	▼17	文章の構成や展開を捉える。
●25(書)	28	▼14	資料を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く。

- 通番号19は、昨年度より若干下がっているものの、一昨年度より10ポイント高く改善傾向は続いています。
- 通番号25は正答率が大幅に下落し、指導の工夫が引き続き求められます。

【問題番号 15】 正答率 47.4%

- 1 問題のねらい
文脈の描写に即して登場人物の心情を捉える問題
- 2 授業実践アイディア例

第1学年 単元名「心に響いた描写を紹介しよう」

教材名「大人になれなかった弟たちに……（光村図書）」

- ◎〔思考力・判断力・表現力等〕の「読むこと」の指導事項イ「場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること」を重点として取り上げ、6時間扱いで指導しました。
- ◎単元の学習課題を「登場人物の心情に迫る描写を捉えよう」とし、「自分にとって最も心に響いた描写を選び紹介する」という言語活動に取り組むことを通して、描写を基に登場人物の心情を捉える力を身に付けられるようにしました。
- ◎指導に当たっては、場面の展開に即した「僕」や「母」の心情の変化等について、行動や会話、情景などの描写を丁寧に読むことで、自分にとって最も心に響いた描写を明確に捉えることができるように工夫しました。交流するグループについては1人1台端末を活用するとともに、自分と同じ描写を選んだグループ、自分とは異なる描写を選んだグループで交流し、より多くの描写に触れることができるように展開しました。

【単元計画】

- | |
|--|
| ① 作品を通読し、初発の感想で「心に響いた描写」とその理由をまとめる。 |
| ② 初発の感想を交流し、学習課題を設定して学習計画を立てる。
作品の時代背景を確認する。 |
| ③ 心に響いた描写の候補をいくつか選び、叙述に基づいて、その描写を選んだ理由も含め、どのように紹介するか考える。 |
| ④ グループで心に響いた描写を紹介し合い、共通して捉えていたことや、新たに出てきた疑問点等を確認する。 |
| ⑤ ④で話し合った内容を全体で共有し、疑問点については描写に着目したそれぞれの読みについて意見交換する。 |
| ⑥ 「最も心に響いた描写」について紹介できるように自分の言葉でまとめる。
単元の学習を振り返る。 |

- ◎④のグループ交流に際しては、自分に生かすことができる情報を見つけたり、よりよい考えを見出したりすることができるようにという交流の目的を意識させるように促しました。また、グループ交流の前に生徒一人一人に自分の考えをしっかりと持たせることを意識しました。自分の考えをまとめることに課題がある生徒については、作品中の気になる描写を抜き出したり、戦時中という時代背景やその中で暮らす人々の生活苦について考えたことを記入したりできるシートを準備しました。心情の変化や当時の状況など、複数の根拠を結び付けて自分の考えをまとめることができる生徒については解釈した内容を確認しながら進めるようにしました。
- ◎描写に着目することで、どこから、どのようなことを捉えることができたかについてや、交流を通してさらに考えが深まったことについてなど、視点を示しながら学習を振り返るとともに、1人1台端末を活用して、初発の感想から単元の振り返りまでを確認できる環境を整備することで、自分の考えの変容や深まりについて自覚できるように準備しました。
- ◎評価に当たっては、③において、描写を基に自分の言葉でまとめることができているかを一旦見取り、個々にフィードバックすることで、授業改善やその後の交流の充実に生かすようにしました。そして、最終的に⑥の「最も心に響いた描写」に書いた内容から、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えているかを確認し評価を行いました。

【問題番号 16】 正答率 44.6%

- 1 問題のねらい
登場人物の言動の意味を捉えることができる
- 2 授業実践アイデア例

第2学年 単元名「人物像を捉える」 教材名「辞書に描かれたもの」
単元名「読む 読書」 教材名「卒業ホームラン」 (いずれも東京書籍)

◎ 「読むこと」の指導事項イ「登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること」を重点として取り上げ、「辞書に描かれたもの」を4時間扱い、「卒業ホームラン」を3時間扱いで指導しました。この2つの単元は時期的に連続しているものではなく、ここでは、単元同士のつながりを意識した授業実践のアイデアとして提示します。

◎ 登場人物の言動の意味を捉えるためには、まず人物像を捉えるための描写を見つける力がが必要です。そこで「辞書に描かれたもの」では、人物像が読み取れる表現を中心に複数の場面や描写を取り上げ、言葉や表現の工夫について丁寧に学習しました。次に「卒業ホームラン」では、生徒に人物像を捉えたい登場人物を選ばせ、小グループでその言動の意味が話の展開にどのように関わっているかを話し合い、既習の内容を基に、読みを深める授業を行いました。

【単元計画】

教材	時間	活動
れ辞 た書 もの描 か	1	全文を通読し、内容をおおまかにつかむ
	2~3	「人物像を捉える」「登場人物の言葉や行動の意味を考える」を参照しながら、登場人物の言葉、行動・態度から人物像や考え方を捉える
	4	自分の知識や体験と結び付けながら、小説を読んで考えたことをまとめる

※共通の重点指導事項を扱い、単元同士のつながりを意識して指導

卒 業 ホ ム ラ ン	1	全文を通読し、内容をおおまかにつかむ
	2	登場人物の中から一人選び、その人物の言葉や行動の意味と話の展開の関係について考え、話し合う
	3	それぞれの人物の言葉や行動の意味を共有し、作品の魅力について話し合う

◎ はじめに、「辞書に描かれたもの」の中で着目したい表現を話し合い、その表現が表す意味を考えます。「言葉が舌の上を通り抜けた瞬間から」「口調が私の心をぶった」「二重の目は遠い場所を追っていた」「言葉の意味もうまく咀嚼できないまま」「それに指を重ねるように、そっと手を伸ばしていた」など単純な意味では捉えられない表現について、語句の意味と前後の文脈を確かめながら丁寧に読みます。この時、身に付けた資質・能力が自覚できるよう、どんな力が付いたかを確認します。

次に、「卒業ホームラン」の全文を通読後、どの人物に着目して読みたいかを選び、その人物の言動の意味が話の展開にどのように関わっているかを小グループで話し合います。その際、言動の意味の捉えの違いに対して「辞書に描かれたもの」の学びを生かすよう確認し語句の意味と前後の文脈を基にして考えるようにします。「辞書に描かれたもの」における言葉を丁寧に読む学習で付けた力を生かし、話し合いによる精査が行われることで、人物の言葉や行動の意味と物語の展開を関係付けて内容を解釈できるようになっていくことが期待されます。

◎ 評価に当たっては、次の視点で行います。「辞書に描かれたもの」では、「登場人物の言動の意味は、語句の意味と前後の文脈、各場面と心情や行動を結び付けることから読み取ることができることを理解しているか」、「卒業ホームラン」では「話し合いを通して、語句の意味と前後の文脈、話の展開との関連から登場人物の言動の意味を考え、内容の理解に生かしているか」を見取るようにします。

3 教科担当指導主事からのコメント

県南教育事務所 指導主事 菊地 光史

婉曲的な表現や、言外に含まれた意図など、会話の流れや状況が示すその意図を読み取ることは、継続して課題が見られます。今野指導教諭は、読み手として、また社会の形成者として確かな力を付けるために、その点に焦点化して力を付けるとともに、「付けた力を生かすこと」「そのために具体的に生徒に示し、自覚させること」を明確に示してくださいました。また、授業者として「学習材のよさを理解し、生徒が力を付けるために適切に生かすこと」も含め、学びの系統性を踏まえた、ねらいの確かな単元づくりについての貴重な提案です。

【問題番号 21】 正答率 46.1% 無解答率 24.0%

- 1 問題のねらい
文章の展開を考えながら要旨を捉える
- 2 授業実践アイデア例

**第1学年 単元名「文章の構成を捉え、要旨を踏まえて言葉を広げよう」
教材名「比喩で広がる言葉の世界（光村図書）」**

◎「読むこと」の指導事項ア「文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること」を重点として取り上げ、3時間扱いで指導しました。

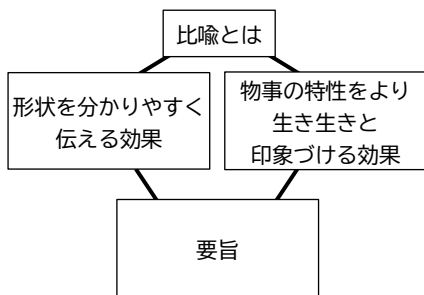
◎まず、文章構成と要旨を図示して、視覚的に文章の構造を確かめます。次に、教材文の内容に照らして筆者の主張の妥当性を検証するため、身の回りの文章などから比喩表現を集め、2種類に分類した比喩表現の効果のどちらにあたるか検討します。集めた比喩表現の効果を言語化することで、筆者の主張の適切さを確かめる学習を行いました。この学習活動を通して、自分がまとめた要旨が妥当であることを確認しながら、要旨をまとめる力を付けると共に、要旨をまとめることに対する自信や意欲を喚起したいと考えました。

◎指導に当たっては、まず、小学校段階で比喩表現について触れていることを確認したうえで、本文を読み、尾括型であることを踏まえて下記の例のように文章の構成を図示し、要旨をまとめます。次に、比喩表現を集め、集めた表現を本文に基づいて分類し、自身がまとめた要旨が本当に適切であるかを考えるために、以下のような単元の学習過程を展開しました。

【単元計画】

- ① 小学校時に学習した比喩表現を想起し、どんなよさがあるか話し合う。本文を読み、文章構成を捉えて図に表し、文章の構成を捉えて（尾括型であることを踏まえて）要旨をまとめる。
- ② 筆者の主張の妥当性を検証するために、比喩表現を身の回りから集め、2つのうちどちらの表現効果であるか整理分類する。
- ③ 集めた比喩表現が、筆者が述べているような価値をもつかを話し合い、筆者の主張の妥当性を検証することとおして、要旨の正確さを確かめるとともに要旨に対する自分の考えをまとめる。

【図示の例】



【留意点】 ※①②③は単元計画に対応

①について、段落番号による文章構成図ではなく、言葉で構成することで、②における表現効果の分類につなげます。
③において目指す姿は、例えば「比喩を使うと表現が豊かになることがよく分かり、正しく要旨をまとめたことが確認できた。今回の学習のように、文章の構成や、主張と取り上げている例などがしっかり結び付いているかに注目して要旨をまとめていきたい。」と振り返るようなイメージです。そのために、ここで生徒の必要に応じて小グループで互いの要旨を「それでいい？」と話し合いました。そのうえで、「要旨のとおりなのか」という視点で比喩表現の価値について話し合い、具体的な例

文を挙げるなどの工夫をしながら要旨に述べられた比喩の価値を確かめ、最終的に「自分のまとめた要旨はそのとおりだった」という結論が得られるようにします。そうすることで、指導事項Cアについての資質・能力を育成するとともに、その礎となる要旨をまとめることに対する自信や意欲をもたせることも大切にします。

- ◎評価に当たっては、①の学習において学習を通して図示ができていないか、要旨をまとめるために適切な段落に着目しているかを見取るようにしました。この見取りにより生徒の学習が望ましい方向に進んでいるかを判断し、②～③に至る学習過程の改善に生かしました。
- ◎③において、最終的な**図示、要旨の内容及び振り返りにおける記述**から本単元における重点である「文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること」について評価を行いました。

【問題番号 25】 正答率 27.4% 無解答率 31.3%

- 1 問題のねらい
資料を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く問題
- 2 授業実践アイデア例

第2学年 単元名「確かな意見を発信しよう～その根拠は意見を支えているか」
教材名「根拠の適切さを考えて書こう 意見文を書く（光村図書）」

- ◎〔思考力・判断力・表現力等〕の「書くこと」の指導事項ウ「根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること」を重点として取り上げ、6時間扱いで指導しました。
- ◎「社会生活から課題を決め、自分の考えを意見文として書く」という言語活動を設定し、課題解決に取り組むことを通して、自分の考えがよりよく伝わるように根拠の適切さを考えながら文章を工夫する力を身に付けることができました。
- ◎指導に当たっては、「賛成・反対」、「どちらがよいか」など立場を明確にさせたいうえで、意見を支える根拠とすることを想定して集めた材料を、根拠として適切かどうか吟味する場を設定しました。また、反論を想定し、それに対する意見を考えることを通して、より自分の考えを明確にしたり、根拠の適切さを確かめたりできるように、次のような単元の学習過程を展開しました。

【単元計画】

- | |
|--|
| ① 複数の投書や意見文の例を読み比べて分析し、適切な根拠に必要な要素を考える。新聞に投書する意見文を書くという言語活動の見通しをもち、学習計画を立てる。 |
| ② 意見文の主張を決め、根拠となる情報を集める。 |
| ③ 集めた材料について、意見を支える根拠として適切かを吟味する。 |
| ④ 反対意見を想定し、反論を考える。 |
| ⑤ 意見文の例の構成を参考にしながら、意見文を書く。 |
| ⑥ 意見文を読み合いつて根拠の適切さについて助言し合い、加筆修正する。単元を振り返る。 |

- ◎①において、適切な根拠に必要な要素として生徒から挙げた内容を、教科書も参考にしながら「客観性」・「信ぴょう性」・「つながり」・「複数」というキーワードにして共有し、②以降、根拠の適切さについて吟味する際の指標とするよう工夫しました。
- ◎②～⑤は、1人1台端末や、学校図書館の利用など、主体的に学習に臨むことができる環境を整え、それぞれの進度に応じた動きを保障しました。学習の状況に応じて、時には学習過程を行きつ戻りつしながら、意見文の下書き完成まで各自で学習を調整できるよう、教師は学習状況の把握に努め、支援を行いました。
- ◎評価に当たっては、③において、根拠の適切さを吟味できているか見取ることによってその後の指導に生かし、⑥で完成させた意見文から、適切な根拠を挙げて自分の考えを書きまとめているか確認し、評価を行いました。
- ◎現行の学習指導要領で新設された〔知識及び技能〕(2)の指導事項ア「意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること」と関連を図ることも有効です。
- ◎完成した意見文を新聞社へ投稿することを通し、生徒に達成感を味わわせることで、自己肯定感の向上も図るようにしました。